

# SO言語およびOS言語を対象とした 比較心理言語学プロジェクト (FALCOHN Project)の 意義

小泉政利  
(東北大学)

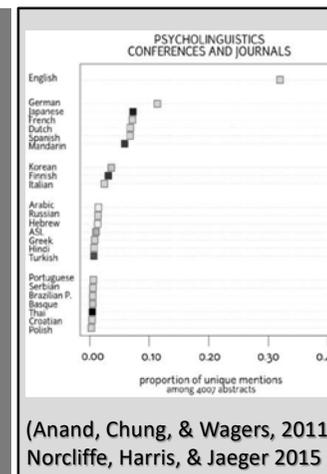
koizumi@tohoku.ac.jp

関西言語学会 第47回大会 特別ワークショップ、2022年6月11日、ZOOM開催

## 学術的背景:SO言語への偏向

言語心理学・脳科学の研究対象

- 全言語の1%未満
- 英語の研究だけで3分の1
- 10言語で全研究の85%以上  
英語, ドイツ語, 日本語, フランス語,  
オランダ語, スペイン語, 中国語,  
韓国語, フィンランド語, ロシア語
- 偏りが大きい
- 殆どが印欧語族の言語
- 全てSO言語



3

## 言語の語順

言語コミュニケーションの基本単位=文

他動詞文

政宗が 帆船を 建造した。  
主語(Subject) 目的語(Object) 動詞(Verb)

論理的に可能な語順(すべて実在)

SOV

SVO

VSO

SO語順

OSV

OVS

VOS

OS語順

2

## 学術的背景:SO言語への偏向

従来の研究は、対象言語が経済的に豊かな国や地域で話されているSO言語に極端に偏っている。

人間の言語能力に関する現在の理論は、OS言語の性質を無視してSO言語の性質があたかも人間言語の普遍的性質であるかのように扱っている。

より多様な言語(特にOS言語)の処理過程とその神経基盤を詳細に研究することが必要不可欠。

4

## “OS科研” (FALCOHN Project)

*FALCOHN Project:*

*Field-based Approaches to  
Language, Cognition, and Human Nature*

- OS語順 Object-before-subject word order
- 動詞先頭語順 Verb-initial word order
- 能格型アラインメント Ergative alignment
- 対称態 Symmetrical voice
- 危機言語 Endangered languages

5

## 第3期OS科研

OS言語からみた  
「言語の語順」と「思考の順序」に関する  
フィールド認知脳科学的研究

科研費基盤研究(S) 19H05589

2019 – 2023

研究代表者 小泉政利



9

## “OS科研” (FALCOHN Project)

- 「OS型言語の文処理メカニズムに関するフィールド言語認知脳科学的研究」  
科研費基盤研究 (S) 2010-2015
- 「OS言語の談話処理メカニズムに関するフィールド言語心理学的研究」  
科研費基盤研究 (A) 2016-2019
- 「OS言語からみた「言語の語順」と「思考の順序」に関するフィールド認知脳科学的研究」  
科研費基盤研究 (S) 2019-2023

6

## 研究目的: 言語の語順と思考の順序の関係解明

SO言語(日本語, トンガ語)と  
OS言語(タロコ語, カクチケル語)を  
フィールド比較言語認知脳科学の手法で比較対照

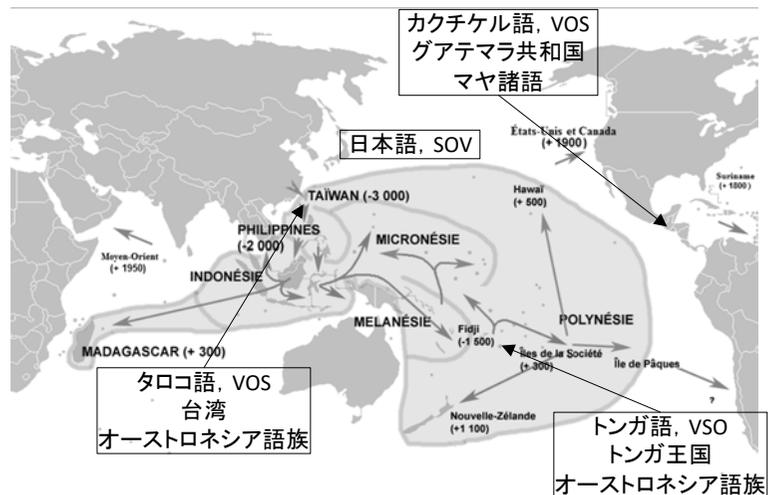
人間言語における語順選好を決定する要因ならびに,  
「言語の語順」と「思考の順序」との関係  
(語順が違くと世界が違って見えるのか?)を解明

言語と思考の脳内処理の普遍性と個別性を探求

言語と文化の垣根を超えて互いに分かり合える  
共生社会の実現に貢献

10

## 研究対象言語



11



TOHOKU  
UNIVERSITY



ご清聴有り難うございました。

## 独自性・創造性

### フィールド比較言語認知脳科学

絶滅が危惧される少数民族言語(特にOS言語)を

話者の居住地に実験装置を持ち込み

最先端の実験手法(含 脳機能計測)で多角的に研究

言語と思考の普遍性と個別性を解明

12